

建材・商社トップ
インタビュー
【第2回】

工事機能の強化と領域拡大図る

資源循環プラットフォーム提供

エムエム建材

社長 温井 健夫氏



整備にも注力している。

——カーボンニュートラル(CN)やSDGsへの取り組みについて。

温井 当社は「建設鋼材(動脈)」を供給するだけでなく、「製鋼原料(静脈)」の事業も併せ持つ。この強みを生かし、業界のCN実現を牽引していきたい。建物の「解体」段階から入り込み、発生したスクラップを再利用していく鉄のクローズドループ採用案件も増え、実績も出ている。同時に、施工段階では省力化工法やグリーン鋼材の供給提案を今後も積極的に行っていく。これまで不透明だった金属スクラップの動きを「点」ではなく「線」でつなぎ、トレーサビリティを確立する仕組みが必要。NTTドコモビジネスと共同で、取引情報を追跡・可視化する資源循環プラットフォーム「STELLAR HUB™」の提供を開始。これにより、資源の有効活用と環境価値の証明を推し進めていきたい。(聞き手〓岡辰巳、文中敬称略)

——足元の取り組みについて。

温井 引き続き、急激な環境変化を先読みし、取引先のニーズに柔軟に 대응していく。工事機能の強化と領域拡大も進める。ゼネコン等の人手不足を補うため、鋼材供給にとどまらず、当社が担う工事機能をさらに拡充。現場の管理力向上、省力化・効率化に寄与していく。リテール分野と加工・物流の高度化では、人口減少・需要減を見据え、自前主義にこだわらず、優良な顧客やパートナー企業と

のアライアンス構築を推進していく。事業投資先との緊密なグループ連携により、加工を含めた機能強化と物流の高度化を図っていく。例えば、グループ会社のエムエム建材販売では、流通機能の向上を企図し、今年4月に東北で複合機を更新し、北海道でもコラム設備の更新を今後行うなど、メーカー、顧客ニーズに合わせて、各地域における加工機能の強化と安定供給に努めていく。

——注力ポイントは。

温井 「建築建材」「棒鋼土木」「製鋼原料」の3

本柱において、川上(上流)から、川中(川下(工事、リテール、物流))に至るまで、バリューチェ

イン全体に積極的な投資を行う。次世代事業も育成する。新商材の開拓や新工法の普及など、将来の収益源となる次世代事業への投資も最重要課題と位置付けている。業界最大のボトルネックである人手不足に対し、DXやAIを活用した省力化ツールの開発を推進。自社の業務効率化だけでなく、サプライチェーン全体の生産性向上に貢献するソリューションを提供していく。これらの各種施策や次世代事業を牽引するためには「人」への投資が不可欠。専門性や多様な知見を持つ即戦力として、キャリア採用を積極的に推進している。同時に、次世代を担う経営人材、プロフェッショナル人材の育成プログラムの拡充や、社員が多様な働き方を選択し、最大限能力を発揮できる職場環境・制度の

整備にも注力している。——カーボンニュートラル(CN)やSDGsへの取り組みについて。

温井 当社は「建設鋼材(動脈)」を供給するだけでなく、「製鋼原料(静脈)」の事業も併せ持つ。この強みを生かし、業界のCN実現を牽引していきたい。建物の「解体」段階から入り込み、発生したスクラップを再利用していく鉄のクローズドループ採用案件も増え、実績も出ている。同時に、施工段階では省力化工法やグリーン鋼材の供給提案を今後も積極的に行っていく。これまで不透明だった金属スクラップの動きを「点」ではなく「線」でつなぎ、トレーサビリティを確立する仕組みが必要。NTTドコモビジネスと共同で、取引情報を追跡・可視化する資源循環プラットフォーム「STELLAR HUB™」の提供を開始。これにより、資源の有効活用と環境価値の証明を推し進めていきたい。(聞き手〓岡辰巳、文中敬称略)



温井 健夫社長